

近畿本部 情報工学部会 9 月度例会の案内

- ◇日時：2020年9月12日(金)14時～17時
◇場所：Web 中継にて実施
◇会費：日本技術士会会員(500 円), 協賛団体会員(500 円) , 未入会者(1000 円),
パスポート所有者および学生(無料)
◇申込および問合せ先：info@jyouhou.ipej-knk.jp

<プログラム>

1. 運営(幹事)会 13:00～13:45

◇本年度幹事(敬称略、順不同)

天野、大川、岡崎、加賀谷、柏原、川本、北村、隅田(清)、野原、東山、本多、榊一、山口

(待合室から Zoom ミーティングルームには 13:50 以降に入室承認いたします)

2. 諸連絡 14:00～14:10

3. 講演 14:10～15:25 佐伯 英子 技術士 (情報工学)

『システム化の落とし穴』

(概要) 複数の要素が、お互いに影響を及ぼし合いながら機能する仕組みをシステムという。何事においても、「個人技に頼らないで、システム化しなければならない」という考え方が支配的である。

しかしシステム化さえすれば、何でもうまく行くわけではない。システムにも良し悪しがあって、ここに大きな落とし穴が潜んでいる。落とし穴に嵌まった「悪い」システム化の事例が、現在もいたる所に存在する。

個人と組織、情報システム、IT 業界の現状から、「良い」システムと「悪い」システムの特徴を見る。そして、コロナで大きく変わりつつある世の中で、どうすれば「良い」システムを作れるのか考える。



4. 講演 15:35～16:50 荻 寛志 技術士 (情報工学)

『病理診断のデジタル化』

(概要) 病理診断は、疾病の治療前や治療中に身体の組織を採取し、治療方針の決定につなげるための確定的な診断を行う医療行為である。また病理解剖は、病気で亡くなった方の正確な原因解明を行うための医療行為である。

従来、病理診断や病理解剖においては、組織標本を作製し、それらを医師が顕微鏡観察することで診断が行われてきたが、近年、コンピュータやデジタル画像が用いられるようになってきている。

本講演では病理診断そのものと病理診断のデジタル化について、技術的な側面を中心に解説する。



10月の月例会10月10日(土)14時からの予定です。